



# ヤングミセス通信

管理会計とは経営者が経営管理するための社内向けの会計です。これからの計画や予算を見積り、事業計画を立てるための基礎となります。経営の課題を見つけるためにも、各現場の現状をデータによって見える化し、それをもとに比較検証し、改善活動に役立ててみてはどうでしょうか。



## 管理会計のすすめ

### 1 管理会計と財務会計の違い

◎**管理会計**は・・・任意で取り入れるもので、経営者が経営管理をする目的で行うため、企業によって詳細は異なります。内部の人間が確認するための資料なので、仕様にも厳密なルールはなく、資料に目を通す人間が理解できるのであれば作者ごとの書式で認められます。

◎**財務会計**は・・・基本的にすべての企業で取り入れます。企業の財務状況を外部に伝える目的があるため、会計基準に準拠して財務諸表(貸借対照表や損益計算書等)を作成しなければなりません。

### 2 管理会計のメリット

○**業績を管理しやすい。コスト削減のポイントを発見ができる。経営戦略を打ちやすい。**

→決算時期だけで判断すると比較的期間が長いため、各月で何があったのか把握するのは難しい。

○**原価の計算や経営計画の予算・実績の管理**など管理会計で突き詰め、社内の**本当の損益やお金の動き**が詳しく見える。

○**無駄な費用や利益につながっていない業務**など明らかになるので、今後の**改善点**がはっきりする。



現場をデータによって**見える化**し、それをもとに**比較検証**し、**改善**に向けた行動を起こす

### 3 農産物の原価計算

管理会計には予算管理(目標と計画を立て、それを実績と比較する未来志向の経営)と原価管理(製品やサービスを提供するための費用を計算する)の2つの柱があります。ここでは原価管理の原価計算を紹介します。

# 「農作物の原価計算」北海道 藤本康男税理士HPより

～原価の集計方法～

出荷までの作業：土づくり、肥料をまく作業、播種、草取り、収穫、選果、梱包、出荷等。これらの活動ごとにデータを集計していきます。例えば、肥料であれば、圃場ごとにまいた肥料の種類ごとの数量と金額です。また、土づくり、播種、草取り、収穫の作業であれば、それぞれ、作物ごとの作業時間が該当します。作業時間は作業者ごとの日報をつけることで集計します。また、選果作業では、良品率(外品率)が集計できます。

まとめると以下ようになります。

- ①種代と肥料代・・・作物ごとに紐づけて集計する。共通の肥料は作付面積で按分。
- ②各種作業代・・・作業ごとの個人の日報をつけて、作物に紐づけする
- ③共通作業代・・・作物ごとに紐づけできない作業は、②の時間比で按分する
- ④その他の経費・・・③と同様に②の時間比で按分して作物ごとに紐づけする
- ⑤規格外品率・・・作物ごとに外品率を集計する

例えばニンジンの原価が高かったとしましょう。その場合、上記①～⑤のどの部分で原価がかかっているのかを追跡することが可能です。追跡の結果、草取りの時間が多いということがわかれば、その原因を追究し、対策を打つことができます。また、外部に販売する場合には、いくらで売れば採算がとれるのかがわかります。

また、現場データをもとにスタッフと一緒にミーティングを行うことをお勧めします。数字を見て、スタッフ一人ひとりが意見を出し合うことで、改善策が出てきます。改善策が出れば、あとはそれを地道に実行するのみです。



## 4 管理会計のデメリット

- ・経理担当者の業務負担が増大する。→**手間がかかる**
- ・社内向けの資料を社員がつくるため、そのやり方が**正しいのか**、管理会計として**正しく機能する資料になっているのか**を判断するのが難しい。



デメリットは**外部の専門家(中小企業診断士や管理会計に精通している人)の知恵を借りることで解決**することができます。

今回紹介した内容は管理会計のほんの一部です。

管理会計を導入することで①**経営状態を把握しやすい**、②**評価軸が明確になる**、③**社員に経営感覚が身につく**、④**施策のPDCAが加速する**といった利点があります。経営体の成長とともに、管理会計を導入してみてもいいのではないでしょうか。

### 出典

- ・令和4年度愛知農業次世代リーダー塾第2回講座「管理会計」安形京子氏
- ・藤本康男税理士HP農業会計コラム